

## 平成30年度園芸振興チームの活動計画について

今月は、当普及センター園芸振興チームの「産地づくり」と「担い手の育成」を両輪とした活動の概要について紹介します。

生産者皆様の収益向上に役立てるよう取り組んで参りますので、よろしくお願ひ致します。

### H30年度計画の主な取組

#### 1 ほうれんそうの産地力強化

##### (1) 単収向上技術の導入支援

- 栽培講習会等による栽培技術習得支援：病虫害防除対策（べと病、ケナガコナダニ等）、高温期の栽培管理
- 現地実証圃の設置による新技術習得：べと病抵抗性品種の導入検討、専用遮光資材の効果実証により、病害抵抗性や多収性を調査し、成果を紹介
- 生産者への情報提供：気象災害・病虫害対策などをFAX情報で提供

##### (2) 省力化技術等の導入支援

- 根切り機導入者へのフォローアップ：機械の稼働率調査および機械の活用支援
- ほうれんそうセンターの機能強化：H29の作業ライン・動線の変更後の効果検討、センター利用促進に向けた経営モデルの作成と生産者への提示

H29年はカイゼンコーディネーターや関係機関と連携して、ほうれんそうセンターの調製作業の機械配置や作業動線の改善に取り組みました。今後は、同センターの利用者が増えることにより、ほうれんそう栽培管理作業への労力の集中が可能となり、生産者の収益向上を達成できるように、支援を継続していきます。

##### (3) ほうれんそうを柱とした営農体系の導入支援（担い手の育成）

- 専門部会、関係機関と連携した若手生産者巡回指導：ハウス事業導入者個別の課題整理に基づく重点指導（排水対策、雑草対策、病虫害防除対策）の実施



▲ほうれんそうセンター作業  
ラインの改善検討

#### 2 「安代りんどう」の産地力強化

##### (1) 安定生産技術の構築

- 病虫害防除指導：部会と連携した発生予察の充実・強化、病虫害防除講習会（特にハダニの発生状況に基づく防除判断の指導）
- 定植時施肥体系変更の効果の検証：新植圃場の定植時施用肥料の違いによる生育状況の把握、定植2年目圃場の施肥（追肥）管理指導



▲ハダニ防除指導会の様子

H29年のハダニ防除体系は「防除時期を予め定めず、発生状況に応じて情報提供」する形に大胆に見直し、圃場指導会とセットで取り組んだ結果、重要害虫の被害が大幅に低減しました。また、「圃場を観察して、基幹防除剤を使わずに乗り切った」など、生産者の意識と行動にも変化が感じられました。

##### (2) 需要期等における生産・出荷拡大支援

- 盆出荷開花調整技術の普及拡大支援：オリジナル品種の適正評価試験実施支援

##### (3) 新規栽培者の栽培技術向上

- 早期技術習得に向けた個別巡回指導：関係組織・機関と連携した丁寧なフォローアップの実施（除草管理、病虫害防除、営農組合管理体制等）
- 優良事例研修会の開催：生産部会（専門部、青年部）として後継者育成に取り組む活動への支援

## 夏場はハウス内の温度管理に気を付けましょう！

### ○ハウス内が高温になると…

- ・茎葉や果実に日焼けが生じたり、しおれや枯死が生じる。
  - ・水分不足によりカルシウム欠乏が生じ、尻腐果や芯腐れ症状が発生する。
  - ・正常な花粉が作られず、着果不稔（落花）や奇形果が発生する。
- …などという事態が引き起こされます。



### ○ハウス内を高温にしないために！

- ・遮光幕等の遮光資材の活用
- ・ハウス開放等による換気
- ・作目に合わせた適切な時間帯のかん水



等の対策によりハウス管理に努めましょう！



また、施設・露地に関わらず、気温の上昇により、アザミウマ類など害虫被害が増えます。涼しい時間帯に薬剤散布を行うとともに圃場周辺も含めて除草を徹底しましょう！

## 熱中症の予防について

7月～8月は例年、熱中症による死亡事故が多発しています。予防対策をしっかりと行いましょう。農作業中に「めまい」や「体がだるい」等の症状が出たら、速やかに対策を取りましょう。



### ◇ 熱中症の予防策

- ① 日中の気温の高い時間の作業を避けましょう。（特に、激しい作業は×）
- ② 早めの休憩、こまめな水分補給を行いましょう。  
（のどが渇いたと感じた時には、すでに軽度の脱水状態になっています）
- ③ 単独作業を避けましょう。  
（熱中症はいきなり来ますので、互いに見守れるようにしておきましょう）

### ◇ 体調不良を感じたら・・・

- ① すぐに作業を中断しましょう。  
熱中症の代表的な症状は以下の通りですが、「暑い環境での体調不良」は全て熱中症の可能性ががあります。  
（症状の例：頭痛、めまい、吐き気、手足がしびれる・冷たい、体が熱い、だるい）
- ② 応急処置を行いましょう。  
涼しい場所へ避難し服をゆるめて風通しをよくし、扇いだりして体を冷やしましょう。水分・塩分を補給しましょう。
- ③ 応急処置をとっても症状が良くならない場合は、病院で手当てを受けましょう。

